



第一地区住民自治協議会 住民自治協議会だより

茂菅・新諏訪町・西長野・桜枝町・狐池・花咲町・往生地・横沢町・西町上・西町南・上西之門町・西之門町・栄町・立町・若松町・旭町・長門町

(発行) 第一地区住民自治協議会 会長 小池公雄

第一地区住民自治協議会は平成 31 年 3 月 22 日に設立 10 周年を迎えます。本号では住自協だよりの 10 年間を振り返る企画を後半に掲載しています。

平成 30 年度後半の事業

10月5日(金)「湯福川清掃」(環境部会) 部会員 29 名、横沢地区住民 11 名



環境部会と横沢地区の合同で毎年行っています。現在の湯福川は水量が多くありませんが、かつては暴れ川で、過去には大きな氾濫をした記録があります。川底に降りての清掃は危険もありますので安全を確認して行っています。一週間ほど前には非常に強い台風 24 号が日本を縦断しましたが、幸い当日の水量は多くなく作業は順調に終了しました。



10月9日(火)「ウォーキング」(健康福祉部会) 参加者 10 名

10 月は「善光寺界限コース」を歩き、往生寺にてご住職夫人の往生寺縁起の絵解きを聞かせていただきました。このウォーキングは、住自協発足以前の第一地区保健補導員会の方々が 4 コースを設定していただきました。以来、継続して開催してきましたが、参加者の減少もあり今後実施内容の検討をしていきたいと思っております。

10月18日(木)「ふれあいのつどい」(健康福祉部会) 115 名参加

ふれあいの集いは、第一地区内のひとり暮らしの高齢者の方々にご参加をいただき開催しています。かつては第一地区公民館他で 2 回に分散して行っていたが、ここ数年は自治会館を借りて年 1 回で開催しています。講演会や演奏会等を毎年内容を変え実施しています。今年の講演会は長野保健医療大学の春原先生に、体験談や思い出話を語ったり共感しあって、認知症予防につなげる「回想法」を指導していただきました。昼食会の後、新諏訪町にお住いの中村さんご夫妻による、バイオリンと電子ピアノの演奏を楽しみました。



10月21日(日) キックベースボール大会(教育文化部会) 147 名参加(応援保護者含む)



秋のスポーツ大会(キックベースボール)は好天に恵まれましたが、朝の気温は低く、加茂小グラウンドに陽が差すまでは震える寒さでした。6 町育成会から 7 チームを編成し熱戦を繰り広げました。結果、優勝は新諏訪 A チーム、準優勝は新諏訪 B チームで新諏訪育成会の独占となりました。来年はその他の育成会チームも頑張りましょう。選手と応援の保護者の皆さんお疲れさまでした。

11月、各町にて防災訓練を実施（安全防災部会）

今年度の防災（避難）訓練は第一地区全体では行わず、町独自にあるいは数町合同にて実施されました。参加者は合計で500名を超え住民の皆さんの防災意識の高さを感じます。

昨年も日本各地で地震・水害・土砂崩落等による災害が多くあり、貴重な人命も失われました。想定を超える各種災害が、いつどこで起きてても不思議でない状況であり、日本を災害列島と呼ぶ人もいます。

そのような中、第一地区では、長野市の一支所一モデル事業において平成28年から30年度の3年間で10名の防災士を養成しました。防災士とは「自助・共助・協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を習得したことを、日本防災士機構が認証した人」です。各町の防災担当者の方々と防災士の皆さんにより、第一地区の防災力が更に高まることを期待します。



12月8日（土）地域間交流事業「エゴマ収穫祭」鬼無里活性化センター 10名参加

地域間交流事業は平成28年度から3年間の長野市補助金事業として行われました。ご承知のように、第一地区は鬼無里地区と3年間交流し、鬼無里地区ではエゴマ栽培の農業体験交流を、第一地区では地区内の古民家再生の模様、麻等の商取引を通しての両地区の関係、第一地区内の神社催事参加等々で交流を深めました。



12月19日（水）人権研修会（教育文化部会）「市政出前講座 - 地域で子供を見守る取り組み」

長野市こども未来部子育て支援課の方を講師に、「子どもの命を守る、長野市の児童虐待への対応」について研修を行いました。出席者は各町区長と人権推進員の方々約30名でした。日本は人口減少が進み、少子化が叫ばれる中、子どもは社会の宝。しかしながら、児童虐待は増え続けています。児童虐待の現状、市の対応状況、虐待防止の取り組み、地域での子育て支援事業、地域や団体による啓発運動などの事例をお聞きし、第一地区としても、声掛けや見守りの活動を通して、子どもを守る取り組みの重要性を再認識しました。



1月29日（火）「男の料理教室」（健康福祉部会）第一地区公民館 10名参加

男の料理教室は3年ぶりとなる「魚のさばき方教室」を実施しました。今回も長野水産物協同組合さんにご協力を頂き、講師は横沢町きよたき商店の清瀧卓陸さんをお願いしました。さばく魚は「こはだ」と「サバ」で、こはだは酢漬けに



サバは味噌煮にしました。清瀧講師の手本を見れば簡単そうですが、実際やってみると簡単に、とはいきません。手順を間違えたり、骨のまわりにたっぷりと身が残ったりと、上手い出来ない所が楽しい「男の料理教室」です。でも、鮮度抜群の材料のおかげで出来上がった二品の味は絶品でした。参加者からは再度挑戦したいとの声が上がっていました。

「第一地区介護予防・生活支援検討会（準備会）」11月28日・2月14日

介護予防・生活支援体制づくりの取り組みが、いま、長野市の各地区で行われています。地区により進捗の違いがありますが、団塊の世代が75歳の後期高齢者となる2025年までの体制づくり完了が目標です。高齢者の増加に対し、介護従事者の人手不足は2023年には日本全国で30万人と推定されています。専門の介護サービスのみならず、地域で介護予防のための居場所づくりを目指すものです。

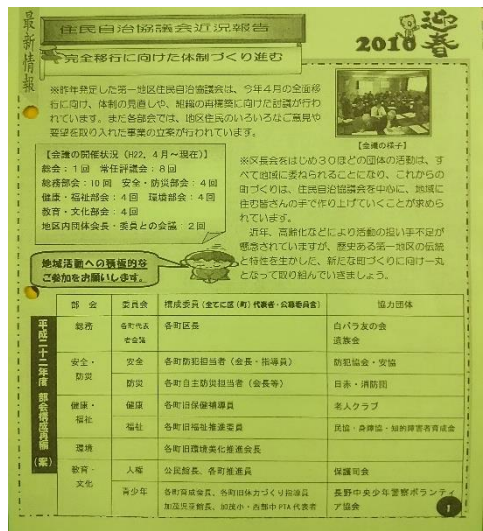
第一地区住自協でも、このための検討会（準備会）を立ち上げました。今後、住民の皆様のご意見ご要望をお伺いすることになると思います。ご協力をお願い致します。

【特集企画；住自協だよりの10年を振り返る】



■左の写真は、平成 21（2009）年 3 月発行の創刊号です。初代会長北澤良洋氏〔西之門町区長（当時）〕の「住民自治協議会は、従来の官主導の地域づくりから、地域住民が主体となって、安心・安全・豊かなすみよいまちづくりを目指そう」との挨拶が掲載されています。

■右の写真は、創刊号に掲載されている、多数の応募の中から選定された、第一地区住自協のキャッチフレーズとロゴマークです。キャッチフレーズは深見多美夫さん（桜枝町）、ロゴマークは島田恵子さん（西町南）の作です。



■左の写真、第 3 号（平成 22 年 1 月発行）では、設立から 1 年を経過し、この年の 4 月から、区長会をはじめ 30 ほどの各種団体の活動をすべて地域に委ねる、完全移行に向けた体制づくりが進んでいるとの内容が掲載されています。各団体には市の補助金が、各々に交付されていましたが、この年度より、交付金は住自協に一括交付されることになりました。各種団体は整理され、第一地区では 12 団体が、総務、安全・防災、健康・福祉、環境、教育・文化の 5 部会に協力して活動することになりました。

■右の写真は、平成 22 年 3 月発行の第 4 号で、第一地区から第五地区



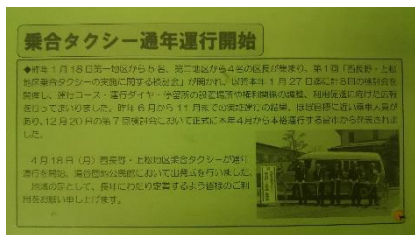
住自協の事務所が合同事務所として、新田町のもんぜんプラザ 8 階に開設した記事です。5 地区の住自協は同時期に設立しましたが、設立から 1 年間は、市役所の地域振興課（当時）内に事務局がありました。掲載記事には、市街地にある第一から第五地区が連携をはかり、住民主体による新しいまちづくりを進める活動拠点として、大きな役割を担う旨の記載があります。

合同事務所はその後、平成 26 年 12 月までもんぜんプラザにありましたが、平成 27 年 1 月より現在の権堂イーストプラザ内に移転しています。



■左の写真は、平成 22 年 6 月発行の第 7 号で、連載企画「事務局員が行く 各区レポート」がスタートしました。区長さんに各区の歴史・名所・伝統等を紹介してもらう企画で、茂菅地区から始まり 17 区を紹介し、平成 26 年 9 月発行の第 23 号の長門町で終了しました。

■右の写真は、平成 23 年 6 月発行の第 9 号。定期総会の模様で、北澤会長が退任され、新会長として竹本次雄さん〔西町上区長（当時）〕が就任されました。竹本新会長は「住自協の活動を通じてお互いの絆を深め、第一地区の特徴を活かした活気ある安心・安全・元気に暮らせる地域・町づくりを目指そう」と呼びかけました。



■同じく第9号には、乗合タクシー「西長野・上松線」の正式運行が開始された記事が載っています。

この乗合タクシーですが、利用者が H28 年度、約 4,500 人（30.6 人/日）。H29 年

度、約 3,900 人（28.1 人/日）。H30 年度（予想）約 3,000 人（21.6 人/日）と、ここ数年の減少幅が大きくなっています。運行経費の 8 割は長野市が負担し、H29 年度で 260 万円を超えています。利便性を高め利用者の増加を図るため、住自協と長野市交通政策課との協議が進んでいます。今後、住民の皆さんの要望をアンケート等でお聞きする機会があると思います。ぜひ、積極的なご意見をお寄せ下さい。



■左の写真は、平成 26 年 3 月発行の第 21 号。長野市の地域やる気支援金を活用し、第一地区住自協で新諏訪のカタクリ群生地につづく歩道を整備したことから、表紙にカタクリの写真を載せカラー刷りにしました。カタクリ群生地が市街地の近くにあるのは珍しく、歩道整備により「春の妖精」と呼ばれるカタクリの花を多くの人に鑑賞してもらいたいとの思いがありました。

住自協だよりはこの後、平成 28 年 7 月発行の第 30 号から、年 4 回発行を年 3 回に変更し、毎回カラー刷りとなりました。

■右の写真は、平成 27 年 6 月発行の第 26 号。4 月の定期総会に於いて、2 代会長の竹本さんが退任され、新会長に小池公雄さん〔新諏訪町区長〕が就任されました。小池新会長は「第一地区では、少子高齢化、大型商店が無い、大病院が遠い、駅や高速のインター等への交通アクセスが不便といった問題点が指摘されており、それらに対応しなければならない。高齢化が進む現代において、何かしてもらおうことを待つのではなく、健常者が地域に役立つことを自ら行うという意識改革が必要な時代だ」と挨拶されました。



■左の写真は、平成 29 年 3 月発行の第 32 号で、表紙の写真はこの年全戸配布した第一地区紹介マップ〔歴史・文化・自然〕です。

第一地区は「長野」の地名発祥の地であり、文字通り歴史・文化・行政等において長野市発展の常に中心地でありました。その遺跡が地区内の随所に残されています。〔歴史・文化・自然〕のマップを片手に第一地区を散策し、「第一地区」に誇りと愛着を深め、さらに住みよいまちづくりを進めていきましょう。

住自協だよりは、これからもより読みやすい広報誌を目指してまいりますので、ご意見、ご感想を遠慮なくお寄せ下さい。

◆ 第一地区住民自治協議会事務局

〒380-0833 長野市大字鶴賀権堂町 2201 番地 20 権堂イーストプラザ ND1 階

電話：262-1217 (FAX 兼)

E-mail: dai1@clock.ocn.ne.jp